



美しい 県土づくりNEWS

2018年
4月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第165号
平成30年5月1日発行
編集 県土整備企画室

目次

- 2 平成30年度 県土整備部のミッション
- 2 全国からの応援職員と共に復旧・復興に取り組みます
- 3 平成30年度 県土整備部の幹部職員
- 4 復興支援道路 一般国道284号室根バイパス開通！
- 6 奥州スマートインターチェンジ開通！
～県南地域初のスマートインターチェンジが開通～
- 8 岩手県河川情報システムから河川の水位の画像を閲覧できるようになりました～県管理河川に河川監視カメラを設置～
- 9 復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！
【第6回】 復興道路と連携した港湾の利活用



平成30年度県土整備部 新体制でスタート ～キーワードは「プラス1」～

平成30年度の県土整備部は、八重樫弘明部長のもと、全国から派遣された42名の応援職員と51名の新採用職員を加えた総勢817名の新しい体制でスタートしました。

今年度は、「我が県土 支え育む 希望郷 『プラス1』」を組織のキャッチフレーズとし、

- 良質な社会資本を提供し県政を支える「プラス1」
- より適正でクオリティの高い業務を追求する「プラス1」
- 組織を構成する職員一人ひとりの能力を高める「プラス1」

に取り組んでいきます。



今年度の県土整備部幹部職員

左から、遠藤道路都市担当技監、中平技監（河川港湾担当）、八重樫県土整備部長、小原副部長兼県土整備企画室長

平成30年度 県土整備部のミッション

今年度は、次の3点を部の主なミッションとして業務に取り組みます。

1. 東日本大震災からの復旧、復興インフラ整備の推進
2. 平成28年台風第10号災害からの復旧事業等の推進
3. 物流・産業振興や安全・安心な暮らしを支える良質な社会資本施設の整備と管理

これらミッションを遂行するためには、工事の適切な進行管理や事前のリスク管理、より効果的で効率的な社会資本の整備と維持管理、地域の建設業の担い手確保、社会資本についての情報発信といった取組が重要です。

災害からの早期復旧・復興、良質な社会資本の提供に向け、県土整備部職員一丸となって取り組んでいきます。

全国からの応援職員と共に復旧・復興に取り組みます

震災津波からの復興に当たっては、東北地方から九州地方まで、全国の自治体から継続的な人的支援をいただいています。

4月2日に行った県土整備部の辞令交付式では、本庁に勤務いただく応援職員に対し、八重樫県土整備部長から辞令を交付し激励の言葉を述べました。応援職員からは、建築住宅課配属の尾北主査（大阪府派遣）が代表して、復興への力強い決意を述べました。

応援職員の皆さんは、本庁、広域振興局土木部等に配属され、復興道路や災害公営住宅の整備、海岸保全施設の復旧等、県の復興関連業務を支援していただきます。

また、4月から、民間企業である郡リース株式会社から職員の派遣をいただいています。応急仮設住宅の点検・改修や解体撤去に民間企業のノウハウを活用していただき、住宅の復興とまちづくり事業の推進をご支援いただきます。



八重樫県土整備部長から派遣応援職員への辞令交付
(平成30年度は、青森県、栃木県、群馬県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県、大阪府、和歌山県、高知県、沖縄県、民間企業から、44名の派遣をいただいています。)

平成30年度 県土整備部の幹部職員

県土整備部長 八重樫 弘明 (やえがし ひろあき)



郷土いわては良いところ。郷土愛をもって、多くの人と語りながらも、「愛読書」を教訓に、大きく羽目は外さぬよう、ビルドバックベター、よりよい復興をどしどし進めましょう。よろしくお祈りします。

出身地：岩手町（沼宮内小学校、同中学校）
得意なこと：微妙絶対音感（ハ長調のドの音が出せます。）
趣味：食べ飲みなど
苦手なこと：年賀状
休日の過ごし方：日帰り温泉
愛読書：「酒呑みの自己弁護」山口瞳、「平成よっばらい研究所」二ノ宮知子
座右の銘：優柔決断
取り組んだこと・苦労したこと：「演述」担当もよき苦労

技監（河川港湾担当） 中平 善伸 (なかひら よしのぶ)



県内各地域では、定住・交流人口の拡大のため必死の取組が行われていることと思います。

自然が美しい、食ベモノがおいしいだけでは勝負にはならず、この地域資源に如何に付加価値をつけるかの勝負です。このように広大な県土各地に人が住み続けていく意義を認識し、また、復旧・復興を進める先にある地域・県土の姿を見据える視点を持ちたいと思います。

初めての岩手県生活。県土各地の人や食（酒）といった宝物に出会えることが楽しみで仕方ありません。皆様、よろしくお祈りします。

（高知県梶原町生まれ、兵庫県西宮市育ち）

副部長兼県土整備企画室長 小原 勝 (おばら まさる)



初めての県土整備部勤務ですが、早速現場視察も行かせていただき、満喫しています。

前職は財政課でしたし、事務の管理職として、予算・経理や議会業務をはじめ人員体制づくり、計画策定などの企画業務等々、任務は幅広いわけですが、部の業務が円滑に進み、いい仕事が仕上がるように手配するのが務めと心得ます。

「ゆっくり急げ」スピーディな判断を心がけつつ、慎重に、組織として手戻りがないように、自身の仕事を進めていきたいと思っています。よろしくお祈りします。

道路都市担当技監 遠藤 昭人 (えんどう あきひと)



これまで土木の技術職員として、道路、港湾、ダム、建設技術、まちづくりなど多くの分野、国や市町村での仕事などにも携われたことが貴重な経験に。若手職員の方々は、様々な機会があると思うので手を上げて飛び込んでみては。

出身地：盛岡市下田生出（旧玉山村）。石川啄木で有名な渋民の近く。岩手山と姫神山を眺めて育つ。

趣味：サッカー。やり始めて40年もう仕事のようなもの。シーズン中は毎週のように試合。

座右の銘：特にナシ。モットーは、明るく楽しく。人が嫌がることはしない。

長所・短所：ドラマ『相棒』の影響を受けて、「細かいところが気になる悪い癖」あり。

【復興支援道路】 一般国道284号室根バイパス開通！！

県南広域振興局土木部一関土木センター

県が「復興支援道路」として一関市室根町で整備を進めてきた一般国道284号室根バイパス（L=4.9km）が、平成30年4月21日（土）に開通しました。

当日は天候にも恵まれ、勝部一関市長、気仙沼市長（代理菅沼副市長）など来賓・関係各位約60名出席のもと、開通式を開催しました。

一関市長から、「構想段階から40年近くの年月を経ての開通であり悲願だった。これにより内陸と沿岸の交流が大きく飛躍する。」、気仙沼副市長から「国道284号は東日本大震災の時には大変お世話になった路線。一関市平泉町と協力し盛り上げていきたい。」と祝辞をいただきました。

また、室根東小学校児童から開通式を迎えるの作文発表があり、「室根バイパスを作ってくれた人達に感謝しています。安全に気をつけて室根バイパスを通ってもらいたい。」など発表いただきました。

その後、テープカットとくす玉開披、郷土芸能である磐井太鼓の披露などにより道路の開通を祝いました。式典後には、室根バイパス促進協議会・室根バイパス安全連絡協議会の主催による安全祈願祭を行い、その後磐井太鼓の音色とともに盛大にパレードを行いました。



細川局長の式辞



勝部一関市長の祝辞



菅原所長の事業経過説明



室根東小学校児童からの作文発表



ゆるキャラたちも大集合！



テープカット・くす玉開披



安全祈願祭

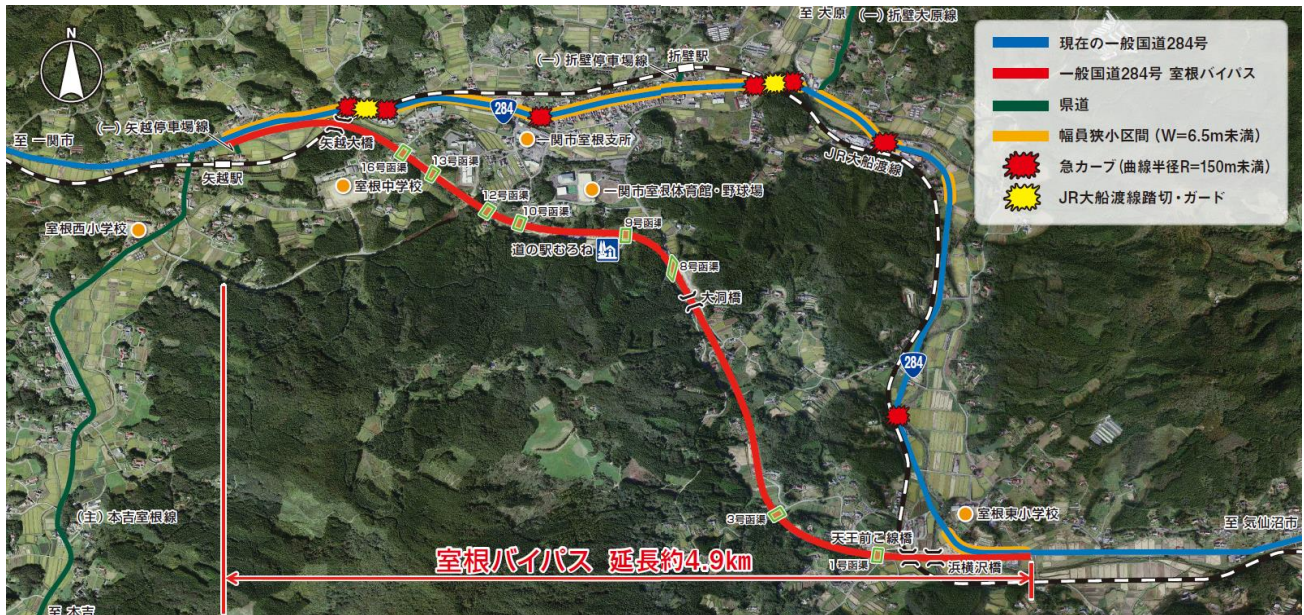


「磐井太鼓」披露



パトカー先導によるパレード

【室根バイパスの事業概要】



【道路整備による効果】

○三陸沿岸地域の命を繋ぐ復興支援道路

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波では、沿岸部への救急救援ルートを確認するため、内陸部から沿岸部にアクセスする道路の啓開を優先的に行い、「くしの歯型」にルートを確保しました。一般国道284号は、その1ルートとして被災地の復旧、復興のため大きな役割を果たしました。室根バイパスは、今後も迅速な避難、救援への役割を果たします。

○広域物流ネットワークの強化

計画延長が約5.9kmから約4.9kmと約1kmの短縮となり、所要時間が約4分短縮されます。また、JR大船渡線の立体交差化により、慢性的な渋滞を回避することができることや、ガード桁下制限の解消によりISO規格背高海上コンテナの通行が可能となるなど物流機能の強化が図られます。

○安全安心の向上

幅員狭小(約3.5km)、急カーブ(7箇所)が解消し、歩道(2.5m)も設置されることから安全で円滑な通行が確保され、事故の減少が期待されます。



室根バイパス開通後の状況

奥州スマートインターチェンジ開通!

～県南地域初のスマートインターチェンジが開通～

県南広域振興局土木部

平成30年4月21日(土)、「奥州スマートインターチェンジ」が開通し、晴天に恵まれる中、岩手県、奥州市、東日本高速道路株式会社(以下、「ネクスコ東日本」という。)との共催で開通式が開催されました。

式典には知事代理として八重樫県土整備部長、小沢奥州市長、松崎ネクスコ東日本東北支社長のほか、地元選出国會議員や県議會議員、東小山幼稚園の園児及び地域住民の方々など多数の関係者が出席しました。

また、知事、奥州市長等の挨拶、國會議員や県議會議長などからの祝辞を頂き、ネクスコ東日本北上管理事務所長から事業経過が報告されました。



岩手県 挨拶
(知事代理 八重樫県土整備部長)



小沢奥州市長 挨拶



松崎ネクスコ東日本東北支社長
挨拶



地域住民の代表者など多くの関係者の手によりテープカット、くす玉開き及びバルーンリリースが行われました。

開通に先立ち、14時半からは、ネクスコ東日本の主催による営業開始セレモニーが行われました。事前に応募いただいた5台の車を先頭にして、15時には料金所ゲートが上がり、開通を待ちかねた車が続々と東北自動車道へ入って行きました。



ネクスコ東日本主催の営業開始セレモニーの状況
(15時の開通を前に、5台の車が待っています。)

○奥州スマートインターチェンジの整備効果

県南地域で初のスマートインターチェンジとなる「奥州スマートインターチェンジ」の開通により、次のような効果が期待されます。

(1) 物流の効率化による地域産業の活性化

農畜産物の集出荷施設からの出荷時間の短縮や大型産直施設までのアクセス性向上により、物流効率化や利用者の利便性向上が図られます。

また、スマートインターチェンジ周辺の製造加工企業への原材料資材の搬入や加工製品搬出などの生産性向上が見込まれ、地域産業の活性化が期待されます。

(2) 救急医療機関へのアクセス性向上による救命率の向上

市内にある第二次救急医療機関の「県立胆沢病院」から第三次救急医療機関である「岩手県高度救命救急センター（岩手医科大学附属病院）」に患者を搬送する時間が短縮され、救命率の向上が期待されます。

(3) 居住者・来訪者の利便性向上

奥州市の中心部近くに整備されることにより、地域住民の近隣市町村への高速道路を利用した通勤、買い物及び観光等では来訪者の利便性向上が期待されます。



E4 東北自動車道 奥州スマートインターチェンジ



奥州スマートインターチェンジは
上り線と下り線の出入口が異なるインターチェンジです。
『盛岡・青森方面』と『仙台・東京方面』注意してご利用ください。



- スマートインターチェンジは ETC専用のインターチェンジです。
- ご利用にあたっては、ETC車載器にETCカードを挿入して通行してください。
 - スマートインターチェンジの開閉バーの前では、必ず一旦停止してください。
 - 開閉バーが開かない場合は、係員にお知らせください。
 - 運用時間：24時間
 - 対象車種：ETC車載器を搭載した全車種

○スマートインターチェンジとは

高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリア、バスストップから乗り降りができるように設置されるインターチェンジで、通行可能な車両（料金の支払い方法を ETC を搭載した車両に限定しているインターチェンジです。

県内では、3月に矢巾スマートインターチェンジが開通したほか、滝沢中央スマートインターチェンジ及び平泉スマートインターチェンジの整備が進められています。

○メリット

- 利用車両が限定されているため、簡易な料金所の設置で済むなど、従来のインターチェンジに比べて低コストで導入できます。
- 地域の活性化、既設インターチェンジや周辺道路の安全かつ円滑な交通の確保、インターチェンジアクセス時間の改善、災害時の一般道路区間の代替など様々な効果が期待されます。

岩手県河川情報システムから 河川の水位の画像が閲覧できるようになりました

～県管理河川に河川監視カメラを設置～

河川課

近年の台風や洪水被害を踏まえ、県は、河川の状況を確認できる画像の配信を平成30年3月から開始しました。

平成28年台風第10号災害で被害の大きかった岩泉町の小本川や安家川などを含む県で管理する全ての水位周知河川29河川31箇所にて河川監視カメラを設置しています。

河川水位の画像は、「岩手県河川情報システム」から閲覧することができます。直接現場へ出向かずに河川の水位状況を視覚的に把握することができますので、洪水から身を守るための情報収集の一つのツールとしてご活用ください。

水位監視カメラの画像の閲覧方法

①インターネットから「岩手県河川情報システム」を検索

(URL: <http://kasen.pref.iwate.jp/iwate/servlet/Gamen30Servlet>)

下記トップ画面から、右上の「カメラ画像」をクリック。



②下記画面中の
画像を見たい箇所のカメラをクリック



③ 水位監視カメラの画像を確認できます
(画像は10分間隔で更新)



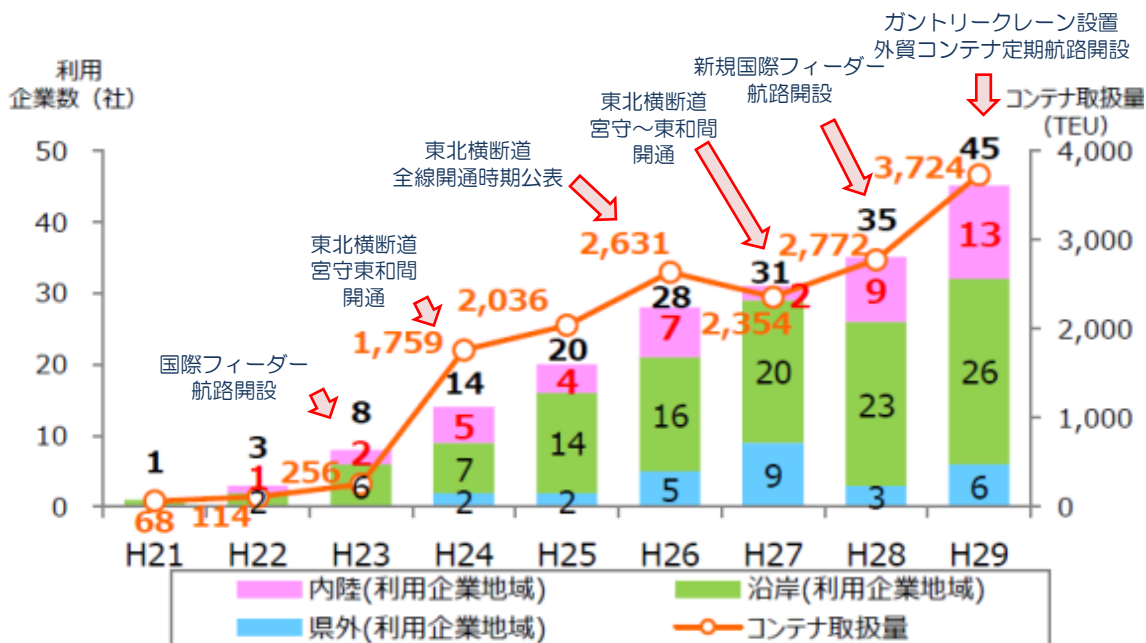
復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！

【第6回】復興道路と連携した港湾の利活用

釜石港と復興道路

- 東北横断自動車道釜石秋田線の整備で釜石港と内陸部の連携強化を図り、産業・経済の活性化を支援
- 大阪府から譲渡されたガントリークレーンが平成 29 年 9 月に供用開始し、荷役能力が従来の 3 倍に向上
- 東北横断自動車道釜石秋田線が今年度全線開通することにより、更なる輸送効率化が期待

東北横断自動車道釜石秋田線の整備がコンテナ取扱量増加を後押し



※H27は復興建設発生土の輸送分(2,066TEU)を除く 資料：釜石市

※復興道路・復興支援道路情報サイト (<http://www.thr.mlit.go.jp/road/fukkou/>) から引用



※復興道路・復興支援道路情報サイト (<http://www.thr.mlit.go.jp/road/fukkou/>) から引用

- 東北横断道の整備の進捗に伴い、釜石港における利用企業数、一般貨物コンテナが増加
- 過去5年間で利用企業数は約 2.3 倍、コンテナ取扱量は約 1.8 倍 (H29 年:過去最多更新)
- 新たに釜石港を利用した企業からは「道路の開通により釜石港の利用を決定した」という声があります (国による「H28.12 企業ヒアリング調査結果(H28 新規釜石港利用企業)」から)

